

# 清流

## 登校も成長の機会

10月も半ばとなり、朝晩は少し肌寒く感じるようになりました。今朝も少し寒かったので、ジャンパーを一枚羽織って、いつものように子どもたちの登校の様子を見て回りました。子どもたちが日々繰り返す登校ですが、この登校の場面でも子どもたちはいろいろなことを経験し、成長しているのだなあと感じる出来事が、今日はいくつかありましたので紹介したいと思います。

### 【その1】毎朝のお参り

横田のある登校班の子どもたちのことです。この子どもたちは、登校途中の谷田病院裏にあるお地蔵さんに、毎朝お参りをしているのです。以前から気づいてはいたのですが、今日は少し詳しく話を聞いてみました。登校班長さんによると、自分が低学年の時からお参りを始めたとのことでした。きっかけは、当時の登校班の上級生のおばあちゃんから、お地蔵さんにお参りをすることを勧められたのだそうです。それからずっと続けているとのことですから、現在の低中学年の子どもたちは、1年生の時から当然のように毎日続けていることとなります。写真にもありますように、毎日お地蔵さんにお参りをすることで、子どもたちは地域や家族の大切さや感謝を感じ、何事も前向きにとらえることができるようになってきているのかもしれない。この班の班長さんが書いた下の作文(運動会後の熊日新聞朝刊「若者コーナー」に掲載)からもそんなことを感じることができました。

【HPにも同じ写真を掲載しています】



### あきらめずにいつも笑顔で

□□□□

私が最後の運動会で学んだことは「どんなときも笑顔」と「何事もあきらめない」ということです。

特にがんばった組み体そうは、今年のテーマは笑顔でした。練習では技が完成すると笑顔を作っていましたが、本番になると、きんちょうもあったのか、なかなか笑うことができませんでした。でもピラミッドを作っているとき、父と母が笑っているのが見えて自然と自分から笑顔が出ました。父や母を喜ばせることができ、うれしくての笑顔だったと思います。

もう一つ、組み体そうでがんばったことは、声を出すことです。最後に声を出すところで、最初の練習では先生から「声が小さい」と言われました。とても悔しかったので、家でたくさん声を出して練習をしました。練習の成果があって本番では大きな声を出すことができました。あきらめずに練習することはとても大切だと思いました。

残り1年となった小学校生活も、笑顔で何事もあきらめずに精いっぱいがんばります。

### 【その2】思いがけないプレゼント

岩下のある登校班の子どもたちのことです。横断歩道に立っている私に向かって、登校班長さんが、遠くから手に持ったビニール袋を上にあげながら何か叫んでいるのです。近づいて話を聞くと、地域の方から、毎日がんばっている子どもたちへということで、人数分のみかんと板チョコを一枚いただいたのだそうです。班の子どもたちは、思いがけないプレゼントに大興奮していたのです。話を聞いた私は、その方に感謝するとともに「毎日あなたたちががんばっている様子を見てプレゼントをくれたんだね。このプレゼントは、下校の時に人数分に分けて返すから、家に帰ってから食べてください。これからも、地域の方々からかわいがられるよう、朝からしっかり挨拶をしたり、ルールを守って登校したりして、毎日がんばろうね。」と子どもたちへ話をしました。

### 【その3】成長しています

有安のある登校班の子どもたちのことです。上のプレゼントの話を書く前に、有安のある班長さんから、「別の班の2年生が走っていてこけてしまい、唇の上をけがしている。その班の班長さんが中心になって、甲佐ランドリーで水を借りて手当をしていた。」との話がありました。その話どおりに、手当をしていた班は、いつもよりかなり遅れて学校近くへやってきました。話を聞いていたので、班長さんに私からお礼を言ったところ、少し予想とは違う答えが返ってきました。それは、「ぼくが、走らないように注意をしていなかったのも悪かったです。」との言葉でした。さらに、班長とは別の5年生が「〇〇君も成長しました。ころんでも泣かずに頑張って歩いてきました。」とも言ってくれたのです。そんな受け答えをしながら、私は「それぞれが様々な小さな経験を積み重ねながら、それぞれの立場でしっかりと成長しているのだな」と感じ、朝から心が満たされる感覚を味わうことができたのです。